

## 幸せな贈り物



## 「世界5大乱闘場国会」 争いは災いをもたらすだけです

**乱闘場政治** どこかで、たくさん見た姿ではありませんか。4月27日、ウクライナではロシア、黒海艦隊のウクライナ領土駐留を延長することに関する批准案について、腕力と煙幕弾が乱舞する、乱闘場議会が開かれました。結局、与党議員だけが参加した中で進行された表決で、全体院内議席450席中236票賛成で駐留延長協定批准案を可決しました。ロシアの黒海艦隊は18世紀エカチェリーナ女帝の時からセヴァストポリに駐留していて、ロシア国民に情動的に意味があるところで、最近ではNATOの東進を牽制する軍事的な要衝地の役割をしています。1991年、旧ソ連崩壊でウクライナがソ連から独立して、黒海艦隊撤収問題が提起され、1997年に両国は20年の契約条件で2017年まで賃貸することに合意しました。現在、ロシアは1年9千700万ドルを基地の賃借料で出しているのですが、今回の延長協定で2017年以後、1億2千万ドルを出すと発表されました。

昨年、アメリカ外交専門紙フォーリン・ポリシー紙が選定した「世界5大乱闘場国会」には、1位韓国、続いて台湾、ウクライナ、イギリス、オーストラリアが選ばれました。

競争時代のドアが開かれ、世の中と政

治の土台には「力の原理」が流れています。マキャヴェリの「君主論」を見れば「君主はもし良い結果が出てくるならば、悪行を行う準備ができていなければならない」と言われています。ひたすら目的のためには手段と方法を選ばなくて良いということです。韓非子も見れば「医師が患者の膿を吸い出すために悪い血を口で吸うのは、その患者と骨肉の情があるからではなく、利益を得るためだ」と言いました。社会や国家、ある場合には夫婦関係までも、徹底して利益追求の場として見る、このような論理が世の中を支配する原理として位置しています。

天安(チョンアン)艦46人勇士の葬式が終わるやいなや、政局は選挙という政治の風の下、戦運が漂っています。それまで耐えていたというように、お互いに対する誹謗をぶちまけています。本当に国を愛して、国民を愛して、未来と次世代を思う指導者ならば、ひたすら自分の利益のためにお互いを誹謗して戦わないでしょう。

私たちは一つの船に乗っています。船が破船すればみんなが死にます。そして、その苦しみは私のもので、あなたのものでなく、私たちみんなのもので、次世代の持分なのです。すべての国民にビジョンを提示して、他の人と共に行けるように背景となる指導者(Governor)が必要な時代に、何か隠された動機と自分のための貪欲が人間を戦うようにさせるのです。

**乱闘場の人生** 人間を絶え間ない争いの中に引っ張っていく力の原理は、人間が悪魔(サタン)の策略にだまされて神様を離れた後からできたのです。

神様を離れる以前の人間は、神様と交わりながら、すべてのことを祝福で味わいました。しかし、神様を離れた以後、人間に食物としてくださった野菜と木の実は「力」を使ってこそ得ることができるようになって、青い草だけが食物として与えら

れた動物も、人間の墮落によって、肉を食べる弱肉強食の世界の中になってしまったのです。生存の問題を解決するために「肉的な文化」が起きて、「力の原理」が支配するようになりました。それで、このような世の中の中で争いによる、のろいと災いの悪循環は反復されるしかないのです。

**どのようにすれば良いのでしょうか** 人間の根本が変わらなければなりません。神様のみことばである聖書には、人間が創造される前からあった暗やみと空虚と混とんの実体、サタン(悪魔)という存在に対して確かに明らかにしています。このサタンは、人間に現れて悪賢い嘘で神様を離れるようにさせました。結局、神様を離れるようになった人間の心の中には、肉の情欲と目の情欲が位置するようになりました。

それ以後、人間はサタンに捕われて、絶え間ない争いと葛藤の中で継続して繰り返す呪いの運命に陥るようになりました。自分も理解できない反復されるおかしな問題(霊的問題)、人生を生きていくほど訪れてくる不安と恐れ、それで、偶像崇拜の中で起きる個人と家庭と家系の相続の苦しみ。心のむなしさの中で増えていくうつ病と精神問題、結局、日常生活まで正しくすることができなくて自殺する人々の数は、ものすごく増えて行っています。自然に、肉体の健康も、人間関係も崩れるようになって、あらゆる病気に苦しめられるようになりました。結局、人間は死んで地獄という永遠な苦しみと刑罰の中に陥るしかありません。

そして、私が持っていた良い点と悪い点など、霊的な問題と偶像崇拜の呪いが、驚くことに子どもたちにすべて伝えられて、不幸の相続が続くようになります。

**すべてのことを変える唯一の道** 人間に何の希望もないとき、神様は人間の問題を解決して下さるために人間を救う計画をたてられました。

その方法は、神様が人間となってこの世に来られることでした。

その方がまさに「イエス・キリスト」です。キリストは、神様を離れたすべての人間が神様に会うようにする唯一の道である真の預言者です。

キリストは、十字架で私たちの罪の代わりに死なれることによって、私たちのすべての罪を解決して、のろいと災いから解放させられる真の祭司です。

キリストは、聖書の預言のとおり、十字架で死んで3日後に復活され、今でも人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン(悪魔)のすべての権威を完全に滅ぼされた真の王です。

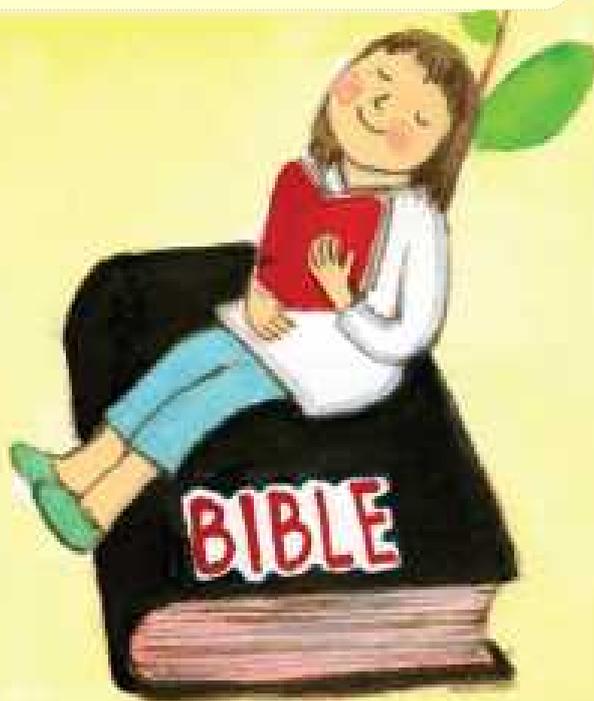
聖書は、このキリストの働きをすべてなされた方がイエス様であることを明らかにしています。人間が絶対に解決できない根本問題を完全に解決された方がイエス・キリストだということです。

それなら、どのように私のすべての問題から解放されて救われることができるのでしょうか。イエス様をキリストと信じて、私の心に受け入れれば良いのです。この時、神様が永遠にともにおられる神様の子ども身分を得るようになり、本来の人間が味わった祝福と権威を回復するようになります。

今、この時間にあなたはイエス・キリストを受け入れることによって神様の子どもになって、すべての運命から、争いとのろいと災いから解放されるようになります。真実な心で下の祈りをすればよいのです。私を変えなくては、どんなことも変わりません。

#### 神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決して下さったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



## 永遠に揺れない土台

**崩れない理由** エンパイア・ステート・ビルディングは、1931年完工したのですが、1945年7月28日、濃い霧のためにB-25爆撃機が78階と79階に衝突して、14人が死に25名が負傷しました。ところで、世界貿易センターは、2つのタワーがあのようにあっという間に、どっと崩れたのに、なぜエンパイア・ステート・ビルディングの建物は崩れなかったのでしょうか。それは、固い岩盤という基礎と、堂々とした壁、鉄骨、鉄筋コンクリートの柱、レンガ構造のゆえだと言われています。

それなら、ただ一度の人生を生きていく私たちが、どのようにすれば崩れない人生を生きて行けるのでしょうか。

**崩れない土台** 重職者は、3つの土台を確かにしなければなりません。最初に、神様の主権を認める契約の土台です。神様は、万物すべてを創造され、治めておられます(創世記1:1-13)。神様は、皆さんを億万の罪悪で救い出すと生まれる前から予定されました(エペソ1:3-5、ローマ16:25-27)。神様は予定されただけではなく、すべてのことを準備されました(ピレモン1:15、摂理)。こんなことが起きて、あんなことが起きるようですが、神様はご自分の計画をみな成し遂げていけます。だから、信仰がないだけが損なのです(エペソ3:2-9、経綸)。そして、必ず時刻表は来ます(使徒13:48、定め)。神様がこのように私たちの人生を完ぺきに導かれるので、私たちは心配する必要がありません。

二つ目、重職者は10の信仰の土台を握らなければなりません。すべてのことが神様の御手にあります(1歴代29:10-14、神様の主権)。神様は私たちを生かすすべての方法で、キリストを送ってくださいました(エペソ1:3-9)。神様は私たちの弱さをご存知で、聖霊に満たしてください、世の中を生かすようにされました(使徒1:8)。神様は、救われた私たちに、最も良い案内書を与えられたのですが、それが神様のみことばです(テモテ3:14-17)。救われた私が神様の神殿で、救われた者が集まる所が教会です(1コリント3:16、マタイ18:18-20)。救われた者がいる現場が宣教地です(使徒18:1-4)。何も心配してはいけないことは、みなさんのすべてのことを神様は守っておられます(詩篇139:1-9)。私たちみんな、死ぬ日が決定されている時限付き人生です。ただし、その日を知らないだけです(ヘブル9:27)。必ず来世である地獄と天国はあります(ルカ16:19-31)。そして、伝道のためのものは、水一杯も報いを失わないと約束されました(マタイ10:40-42)。三つ目、重職者の方が受けた祝福の土台は、私がいる地域に神の国が臨む地教会です(1コリント16:19)。この土台の上に立っている重職者は、崩れないこの時代の主役です。

## 神様の子どもたちの五つの確信

- 救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ8:15~16、1ヨハネ5:10~13)
- 祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ15:7)
- 導きの確信**：神様は聖霊で私の中におられ、私のすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ14:26~27、箴言3:5~6)
- 赦しの確信**：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(1ヨハネ1:9、ローマ3:24)
- 勝利の確信**：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ8:31~37、1ヨハネ5:4)

## 神様の子どもたちの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン





## 私を助けてください！

イラスト\_ユン・スルギ

年齢も幼いのに、たびたび耳にお経をよむ声が聞こえて、その声が心をやすらぐようにするのではなく、混乱するようにさせ、夜になると夜ごとに蛇や虎に追われて逃げながら、限りなくぼみに落ちる悪夢の中に生きているならばどうだろうか。

ところで、そのようなことが偶然に時々起きるのではなく、あまりにも、私たちの周辺の子どもたちが、あるときには大人たちも、たくさん苦しめられているということだ。もしかしたら、私の前に座って今は笑っている子どもでも、このように夜ごとに苦しみながら「頼むから、私を助けてください！」と泣き叫んでいるかもしれない。

たいてい偶像崇拜が激しい家系では、必ずこういう霊的問題が現れる。人の脳は休まない器官で、寝ている間にも活動しているので、夢を見るようになって、影響を受けたことにしただけで、ことばも行動も無意識のうちにするようになる。

今は救われて、健康を味わって自由になっているある長老は、彼のおばあさんが信心深く、いつもお経をよんで時間があればお祓いをして、いつも供養をしている家系で育ったが、結局、自分の幼い時期に、こういう幻聴、幻覚が現れ始めたということだ。その結果に対して大人の答えは非常に無責任だった。気が弱いのでそうだといたり、背が伸びようとするときに現れる現象だと言ったり、それが一つの文化であるから、そのまま受けなさいと言ったり、答えも千差万別であったから、問題はあっても答えがないことを大人たちから発見したということだ。結局、この少年は死にそうな状態でも、どうにか死なないうちで、神様が備えられた時刻表に合わせて救われたのだった。

新春に出る若い枝が、太陽の光の下で強くなって青くなって行くのに、ただ一つ自分の枝は世の中で

いつもかわいていて、ねじ曲がっているのに、希望を失って、未来を約束できなかったという。夜ごとの悪夢から抜け出ることができなかったのも、恐れを基本にしていたままだったのだ。

ところが、ある日、小さな一言の話の中で、自分の救いを成し遂げるメッセージが聞こえてきた。数えきれない努力を重ねて、苦しみを日常茶飯事で受けてこそ、かろうじて得られるか、得られないかというのが救いだと思っていたが、救いは信仰でそのまま受けるという夢のような声だった。救いは、すでにイエスが十字架でみな成し遂げられたことなので、そのまま信じるだけで良いという、話にもならない言葉だった。しかし、その長老は生きるべきだという気持ちで、その嘘のような言葉を信じて、結局、それが自分の苦しみに勝つ道になることを知ることになったのだ。その方は、もうこの福音を自分の事業をする少しの時間をあけて言うことを楽しむ。なぜなら、自分のように死にそうな人のためにだからだ。

このように、救いは簡単に迫ってきた恵みによって祝福を味わうことだ。話すしかない事実に答える中で私たちは立てられて、そのある日の偶然でない告白を私たちの現実と未来を直視して、現実と救いを成し遂げる時間を持つようになるのだ。死にそうな人は生きる道があるので、道ではないところで死なずに、生きる道がある道に出てきてください。救いは、考えるよりやさしいところにある。

文\_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

\*相談したい方はこちらまでどうぞ